

守山企業景況調査報告書

(第9回)

平成23年10月～平成23年12月期 実績

平成24年1月～平成24年3月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 23 年 10 月～平成 23 年 12 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	20	100.0%
製造業	13	13	100.0%
建設業	12	10	83.3%
サービス業	20	18	90.0%
卸売業	6	6	100.0%
合計	71	67	94.4%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 23 年 10 月～平成 23 年 12 月、見通しを平成 24 年 1 月～平成 24 年 3 月とし、調査時点は平成 24 年 1 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 23 年 10 月～12 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 23 年 10 月～12 月期の調査結果では前回調査に比べて、業況と売上高がマイナスになり、採算（経常利益）と資金繰りはプラスになった。業況は 3 四半期連続のマイナスである。売上高は前回調査よりも 11 ポイントのマイナスである。採算（経常利益）と資金繰りは 2 四半期連続で指数が改善している。

平成 24 年 1 月～3 月期見込みでは、業況、売上高、採算（経常利益）が改善の見通しであり、資金繰りは 1.2 ポイントのマイナスとなっている。

<業況>

平成 23 年 10～12 月期の業況は▲30.3 と前回調査に比べて 2.4 ポイントの悪化となった。過去 1 年を見ると平成 23 年 1～3 月期の▲18.8 を最高点として 3 四半期連続で指数が悪化している。特に、製造業は平成 23 年 1～3 月期には 23.1 とプラスであったが 3 四半期後には▲23.1 と 46.2 ポイントも落しているのが目を引く結果となった。

平成 24 年 1～3 月期見通しでも、小売業、建設業、サービス業、卸売業では改善見通しなのに対して製造業だけがさらなる悪化の見通しとなっている。

<売上高>

売上高の 10～12 月期の DI 指数は▲26.9 であった。前回調査に比べると、11 ポイントの下落である。業種別では小売業が 6.8 ポイントの改善、製造業が 38.5 ポイントの下落、建設業が 23.3 ポイントの下落、サービス業が 4.7 ポイントの改善、卸売業が 33.4 ポイントの下落となっている。

平成 24 年 1～3 月期の見通しは▲22.4 であり、4.5 ポイントの改善見通しとなっている。

<採算（経常利益）>

採算は全体で▲32.8 となり、前回調査より 3.4 ポイント改善した。小売業 6.6 ポイント改善、製造業が 15.4 ポイントの改善、建設業が 6.7 ポイントの改善、サービス業が 12.6 ポイントの下落、卸売業は変化なしとなっている。

平成 24 年 1～3 月期の見通しは▲30.6 と 2.2 ポイントの改善となっている。

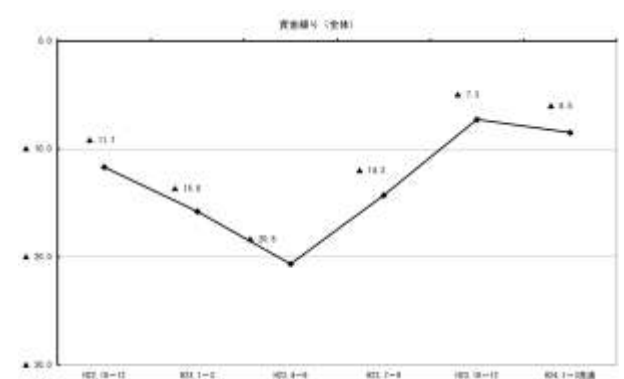
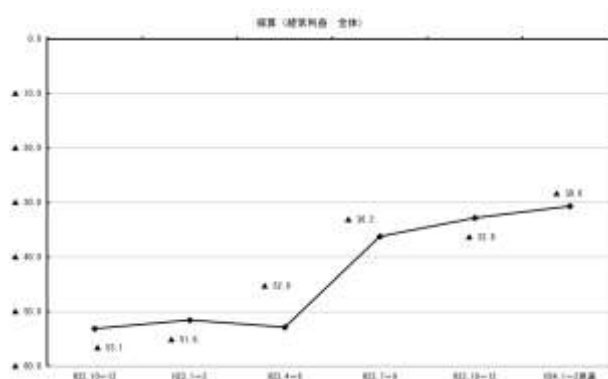
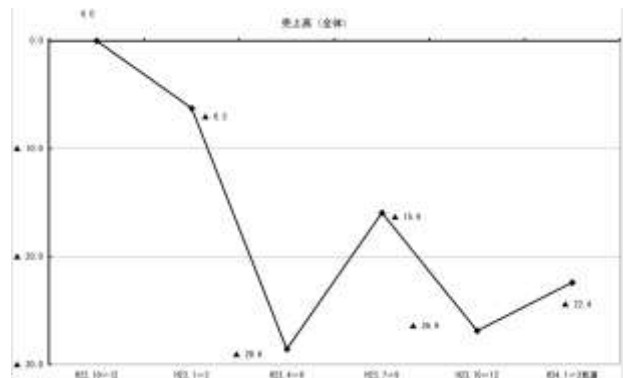
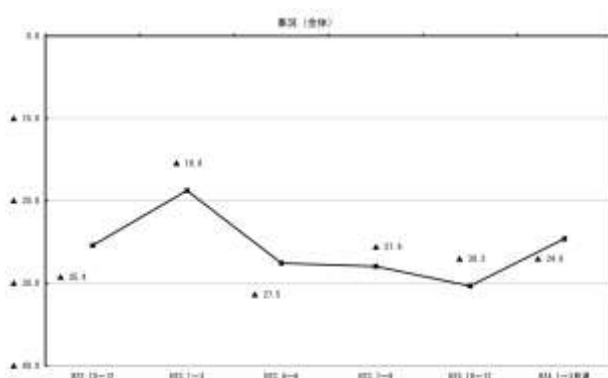
<資金繰り>

資金繰りの DI 指数は▲7.3 となり、前回調査の▲14.3 と比べると 7 ポイントの改善になっている。業種別では、小売業が 22.2 ポイント改善、製造業が横ばい、建設業は 10 ポイント下落、サービス業が 9.2 ポイント改善、卸売業は 3.3 ポイント下落となっている。

平成 24 年 1～3 月期の見通しは▲8.5 と 1.2 ポイント下落している。

<その他の意見>

- 原料となる中東の油情勢によって極端に製品原価が上昇する業界では先行きが全く不安である。政府の原油備蓄量を現在の10倍にして欲しい。国の場当り的な施策には国民としても恥ずかしい。
- 政府や行政の政策が大企業、IT、農業、電機、車関係に偏っている限りその他の中小企業は死に体である。人を雇い、犯罪や生活保護、社会不安をなくすには地元の中小零細企業を恒常的に守らなければならない。
- 道州制へのマクロ的な大きなパイへの効率的な移行と同時に、TPP、高齢化、中小企業などへの影響のあるミクロ的な小さなパイへの支援が求められる状態で、コストに対しての費用対効果アップと応能応益の負担のアップの経済情勢になっていない。
- 政府の明確な方向性、具体的施策を出せていないことも経済不安定の原因の1つ。資金面での不足は仕方がないと思うが、絞るところは絞って、国民が納得いく増税施策を進めて欲しい。



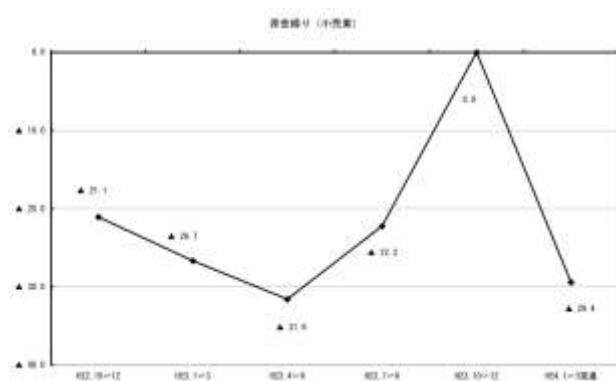
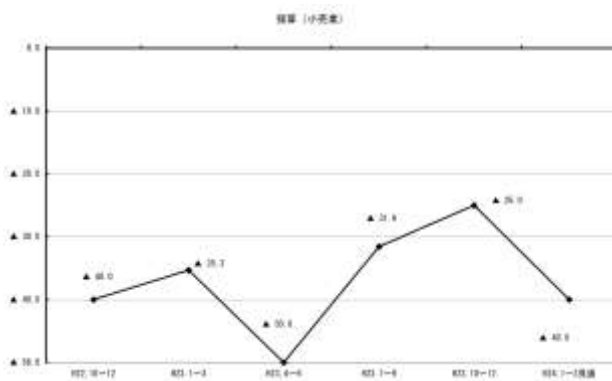
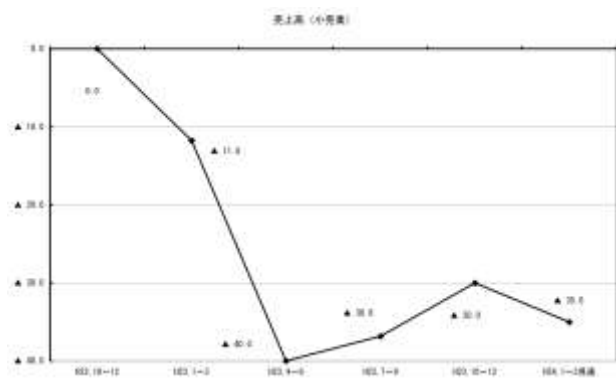
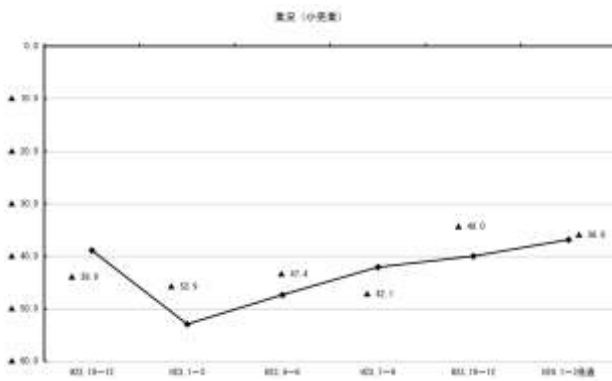
小売業

小売業の10～12月期の業況DIは▲40.0と前回調査の▲42.1より2.1ポイント改善した。この改善は3四半期連続の改善で、過去1年を見ると平成23年1～3月期の▲52.9を底として徐々に指数が上向きになっている。平成24年1～3月期の見通しも▲36.8と上向いており、見通しの通りに推移すると1年連続の改善となる。

売上高DIは▲30.0となり、こちらは4～6月期を底として2四半期連続の改善である。しかし、平成24年1～3月期見通しは▲35.0と悪化しており、回復傾向が続くとは言えないように見える。

採算（経常利益）DIは▲25.0となった。売上高と呼応するような動きを見せており、これも2四半期連続の改善である。底の4～6月期の▲50.0からすると25ポイントと大きく改善している。一方で、平成24年1～3月期見通しは▲40.0と15ポイント悪化となっておりこの指数からも改善の傾向が読み取れない。

資金繰りDIは0.0となり売上高や採算（経常利益）と同様の動きを見せている。これもまた、次の四半期見通しが▲29.4となっており、改善が見えてこない状態である。



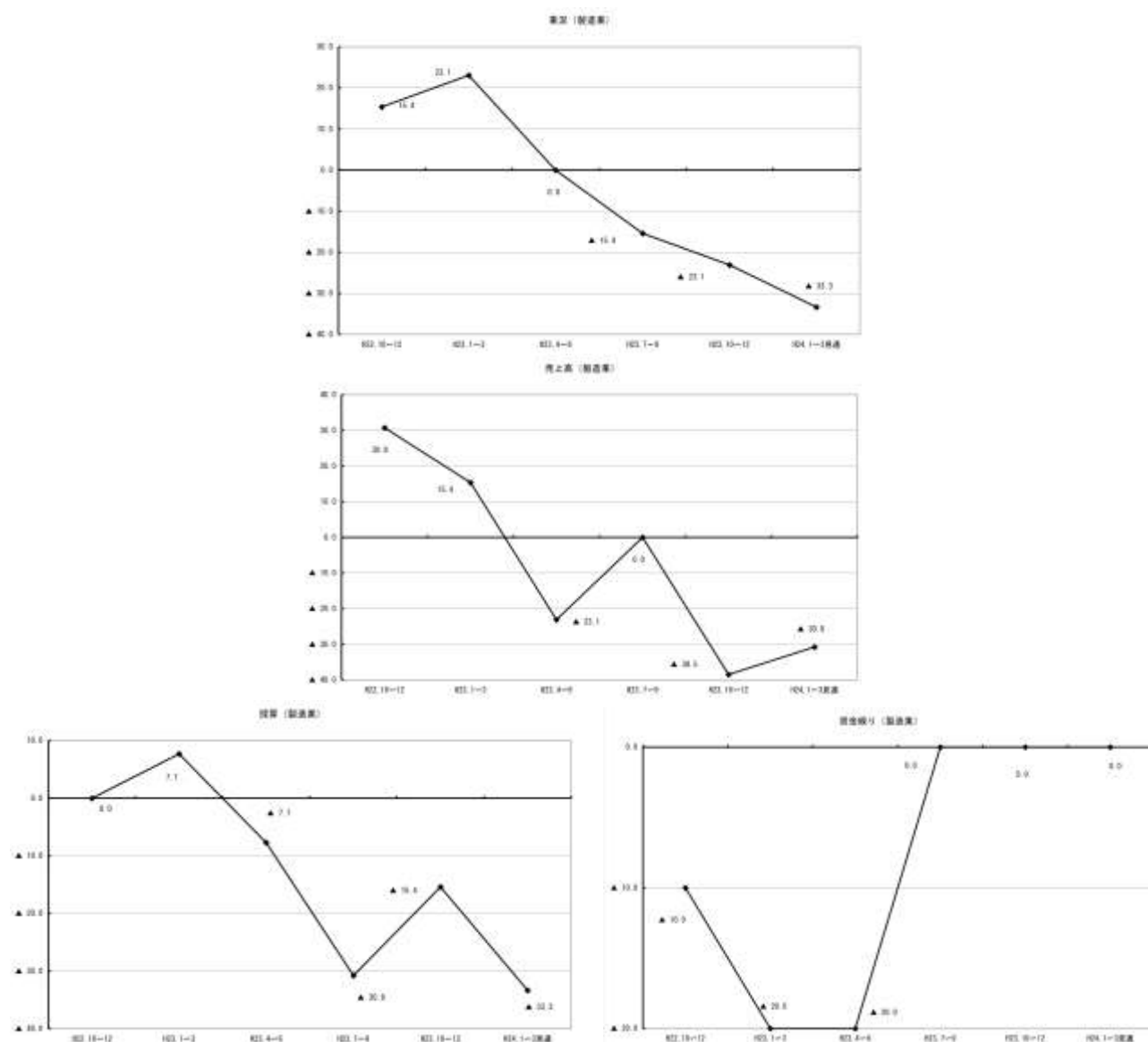
製造業

製造業の業況DIは▲23.1と3四半期連続の悪化となった。過去1年の推移を見ても平成23年1～3月期の23.1から連続的に素数が悪化しており、業況の悪化傾向に歯止めがかかる心配がない。平成24年1～3月期見通しも▲33.3とさらなる悪化となっているのが気付きである。

売上高DIは▲38.5と過去1年の最低を記録している。7～9月期のDIが0.0であったのでそこからすると大幅なマイナスであるが、平成22年10～12月期の30.8から見れば実に69.3ポイントも悪化している。平成24年1～3月期見通しは▲30.8と少し上向いているものの子の状態からの回復には至らないようである。

採算（経常利益）DIは▲15.4と15.4ポイントの改善である。これだけを見ると持ち直しの兆しにも見えるが、平成24年1～3月期の見通しは▲33.3となっており、持ち直しとはとても言える状態ではない。

資金繰りDIは0.0と2四半期連続の横ばいであった。平成24年1～3月期の見通しも0.0となっており、状態の悪化はなさそうである。



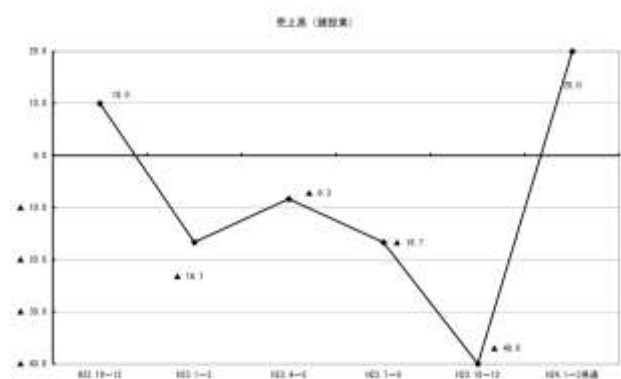
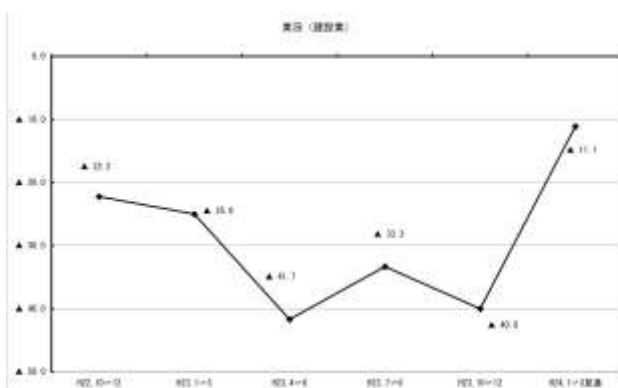
建設業

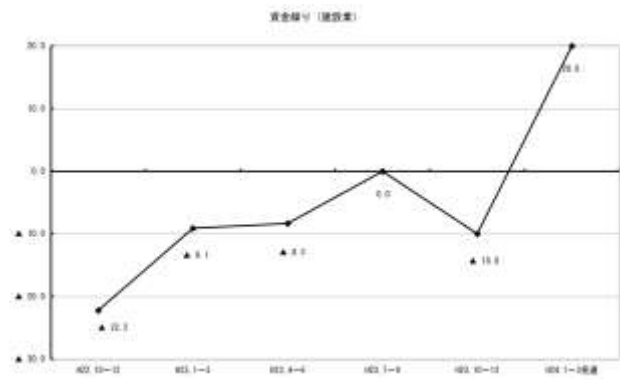
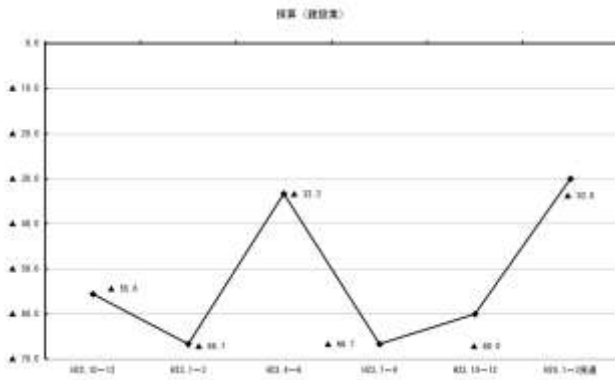
建設業の業況DIは▲40.0であった。7～9月期は▲33.3であったので、6.7ポイントの悪化である。その前の4～6月期が▲41.7なので指数としては逆戻りした感がある。過去1年を通して見ると平成23年1～3月期の▲25.0から始まり、▲41.7、▲33.3、▲40.0と改善、悪化を繰り返す傾向が出ている。平成24年1～3月期見通しは▲11.1となっており改善の順にあたっているようである。

売上高DIは▲40.0と大きく下落した。7～9月期に続いての下落であり、過去1年でも最低の指数となっている。しかし、平成24年1～3月期見通しでは、20.0と60ポイントの大幅上昇を見込んでいる。過去を見ても一気に指数が上昇する時期があるので、一種の季節的変化を示しているのかもしれない。

採算（経常利益）のDIは▲60.0であった。7～9月期の▲66.7に比べると改善はされているが、低水準であることに変わりはない。平成24年1～3月期の見通しは▲30.0と改善が期待される場所である。

資金繰りのDIは▲10.0と前回調査より10ポイント悪化した。ただ、大きなトレンドとしては資金繰りが改善されているようで、徐々に指数がプラスに向っている。平成24年1～3月期は20.0と30ポイントの改善が見込まれており、この右肩上がり傾向が続いているようである。





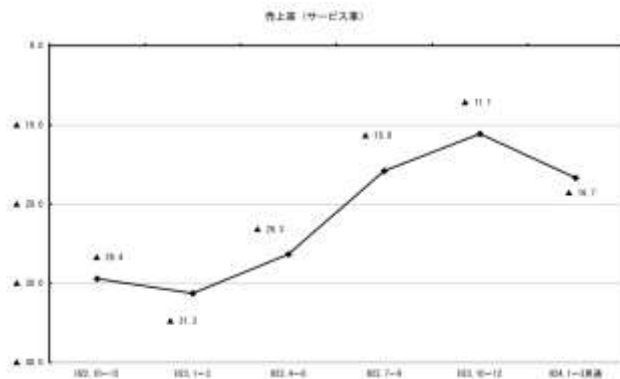
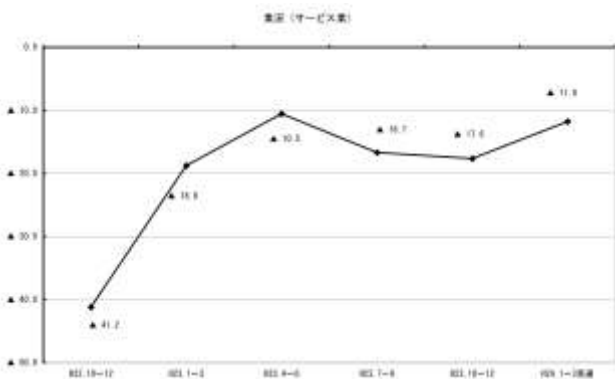
サービス業

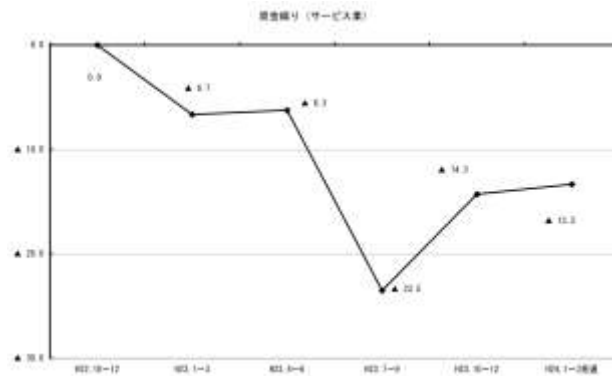
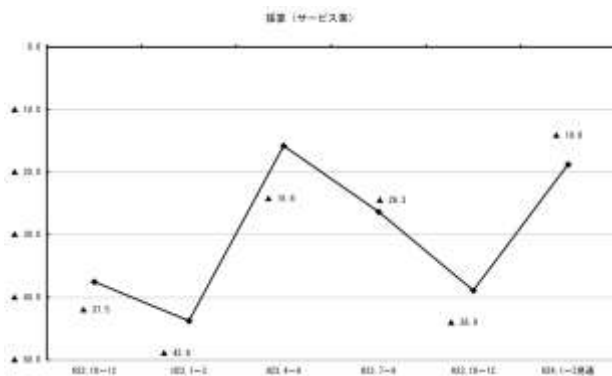
サービス業の業況DIは▲17.6と前回調査よりも0.9ポイント悪化した。前回調査と2四半期連続の悪化であるが、悪化幅がそれほど大きくない事を考えると業況の悪化が進んだとまでは言いにくい。平成24年1~3月期が▲11.8であるので、全体としては回復に向っているような指数である。

売上高DIは▲11.1と3四半期連続の改善である。着実に売上高は改善しているように見える。ただし、平成24年1~3月期の見通しは▲16.7と悪化しており、回復傾向にブレーキがかかる可能性もあると言える。

採算(経常利益)は▲38.9と2四半期連続の悪化であった。採算(経常利益)は業況や売上高の動きとは逆の動きを示しているようである。平成24年1~3月期は▲18.8と採算は回復する見通しである。

資金繰りDIは▲14.3と前回調査に比べて改善している。前回調査までは指数が悪化していく傾向が強かったが、この期に持ち直したようである。平成24年1~3月期見通しも▲13.3となっているので、資金繰りは回復基調にあるように見える。





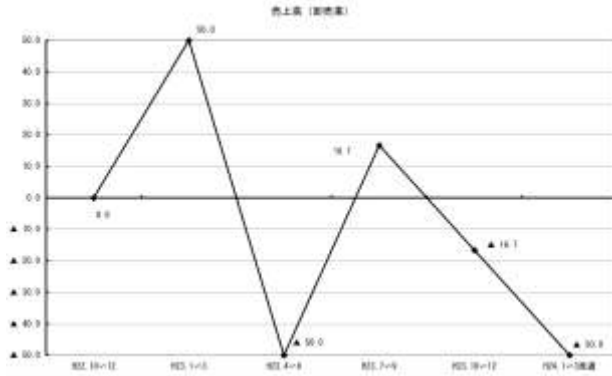
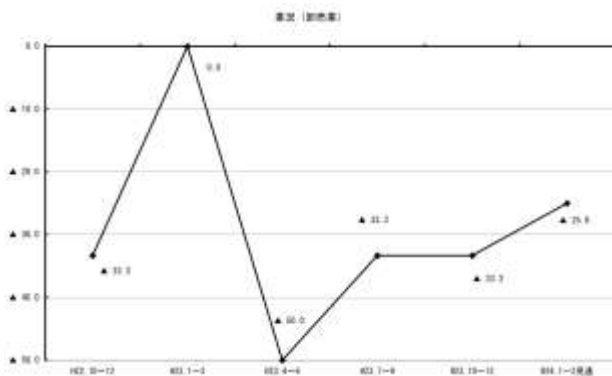
卸売業

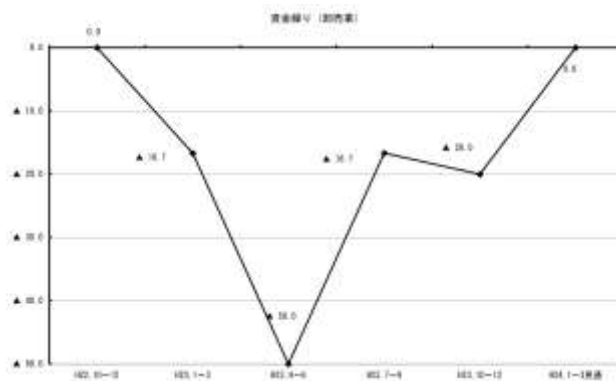
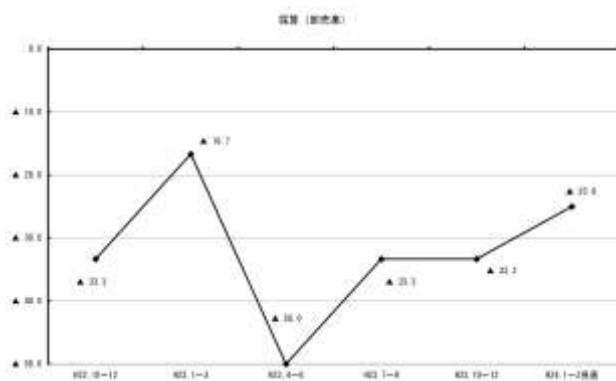
卸売業の業況 DI は▲33.3 と前回調査と同じ指数となった。4～6 月期が▲50.0 と過去 1 年では最低の指数となって以来、回復の傾向にあるように見える。平成 24 年 1～3 月期が▲25.0 であるので、この回復傾向が続きそうな勢いである。

売上高 DI は、▲16.7 と前回調査に比べて 35.4 ポイント悪化した。過去を見るとのこぎりの歯のような上下の動きがある指数なので今回は悪化する順であるが、改善する順であるはずの平成 24 年 1～3 月期見通しが▲50.0 と大きく悪化という指数がでているのが気になるところである。

採算 (経常利益) の DI は▲33.3 と前回調査と同じ数値になった。こちらは業況と非常に似た動きを見せており、平成 24 年 1～3 月期見通しでは▲25.0 と改善になっている。このあたりも業況と同じ動きである。

資金繰り DI は▲20.0 と前回調査よりも 3.3 ポイント悪化した。4～6 月期の▲50.0 から見ればかなりの指数改善であり、傾向としては回復傾向であるように見える。平成 24 年 1～3 月期見通しでは 0.0 まで改善しておりこの傾向が続く勢いである。





DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算 (経常利益)	
	10月～12月期動向	1～3月期見通し	10月～12月期動向	1～3月期見通し	10月～12月期動向	1～3月期見通し
全体	▲ 30.3	▲ 24.6	▲ 26.9	▲ 22.4	▲ 32.8	▲ 30.6
小売業	▲ 40.0	▲ 36.8	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 25.0	▲ 40.0
製造業	▲ 23.1	▲ 33.3	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 15.4	▲ 33.3
建設業	▲ 40.0	▲ 11.1	▲ 40.0	20.0	▲ 60.0	▲ 30.0
サービス業	▲ 17.6	▲ 11.8	▲ 11.1	▲ 16.7	▲ 38.9	▲ 18.8
卸売業	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 25.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) 水準		取引の問い合わせ		従業員	
	10月～12月期動向	1～3月期見通し	10月～12月期動向	1～3月期見通し	10月～12月期動向	1～3月期見通し
全体	1.5	0.0	▲ 35.0	▲ 30.3	▲ 11.1	▲ 9.7

小売業	5.0	▲ 5.3	▲ 43.8	▲ 46.7	▲ 23.5	▲ 17.6
製造業	53.8	46.2	▲ 25.0	▲ 25.0	15.4	▲ 8.3
建設業	▲ 50.0	0.0	▲ 22.2	37.5	▲ 40.0	▲ 30.0
サービス業	▲ 5.6	▲ 16.7	▲ 38.9	▲ 44.4	▲ 5.9	5.6
卸売業	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 40.0	▲ 40.0	0.0	0.0

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	10月～12月期動向	1～3月期見通し	10月～12月期動向	1～3月期見通し	10月～12月期動向	1～3月期見通し
全 体	▲ 7.3	▲ 8.5	10.2	4.1	12.8	4.3
小売業	0.0	▲ 29.4	0.0	▲ 7.7	▲ 7.7	▲ 15.4
製造業	0.0	0.0	18.2	18.2	20.0	20.0
建設業	▲ 10.0	20.0	0.0	0.0	22.2	11.1
サービス業	▲ 14.3	▲ 13.3	20.0	10.0	20.0	10.0
卸売業	▲ 20.0	0.0	16.7	0.0	20.0	0.0